

奈良県の消費実態について

—平成21年全国消費実態調査の結果より—

(二人以上世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果)

昨年12月24日に総務省より公表された、平成21年全国消費実態調査の結果(二人以上世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果)をもとに、奈良県の消費実態について概要をとりまとめましたのでお知らせします。

1. 結果概要の要旨

★消費支出は、全国3位(前回16位)

- 奈良県の1世帯当たり1か月平均消費支出は、327,550円(全国300,936円)となった。
- 全国的には、平成6年をピークに減少傾向にあるなかで、奈良県は今回調査では、前回調査より2,907円(0.9%)増加した。
- 奈良県では、平成元年以降、全国平均を上回っている。
- 支出項目別に1世帯当たりの1か月平均消費支出の構成比をみると、「食料」22.0%、「その他消費支出」21.0%、「交通・通信」14.2%、及び「教養娯楽」11.1%の順に支出割合が高く、全国の構成比と大きな差異はない。

★県外での購入割合は、※全国1位

- 奈良県の「他の市町村(県外)」で購入する割合は15.9%(全国8.3%)と全国で最も高い。
- 購入先別にみると、「他の市町村(県外)」で支出割合が高いものは、「百貨店」28.4%(全国14.5%)、「一般小売店」14.7%(全国7.0%)、「スーパー」6.0%(全国2.1%)となっている。

※県外での購入割合

- ・今回調査で初めて調査項目に「購入地域」が加わった。購入地域は3区分で、「同じ市町村」、「他の市町村(県内)」、「他の市町村(県外)」となっている。
- ・全体的な傾向として、首都圏、近畿圏において県外での購入割合が高い。

★貯蓄現在高は、全国2位(前回4位)

- 奈良県の1世帯当たりの平成21年11月末日現在の貯蓄現在高は、18,991千円(全国15,208千円)で、前回の平成16年調査(19,091千円)より、100千円(0.5%)減少した。
- 全国的に貯蓄現在高は減少したが、本県の減少率は0.5%であり、全国平均の減少率2.2%より低い。

2. 調査の概要

別紙のとおり

平成21年全国消費実態調査の概要

1 調査の目的

全国消費実態調査は、国民生活の実態について、家計の収支及び貯蓄・負債、耐久消費財、住宅・宅地などの家計資産を総合的に調査し、全国及び地域別の世帯の消費・所得・資産に係る水準、構造、分布などを明らかにすることを目的として、昭和34年(1959年)の第1回調査以来5年ごとに実施されており、今回は11回目にあたる。

2 調査の期間

平成21年9月～11月の3か月間

ただし、単身世帯については、10月及び11月の2か月間

3 調査の対象

全国のすべての世帯のうち総務大臣の定める方法により選定された世帯
(二人以上の世帯・単身世帯)

4 調査対象市町村

・市については、平成21年1月1日現在のすべての市(784市)

・町村については、平成21年1月1日現在の998町村から219町村を選定

5 調査対象の選定

調査対象は、調査市町村の中から合計4,367調査単位区を選定し、二人以上の世帯は各調査単位区から12世帯を抽出し、全国で52,404世帯を、単身世帯は全調査単位区の中から4,402世帯を選定

6 調査事項及び調査期日

・収入及び支出に関する事項等…9月から11月の3ヶ月間

(単身世帯は10月11月の2ヶ月間)

・年間収入及び貯蓄・負債に関する事項…11月末日現在

・主要耐久消費財に関する事項…10月末日現在

奈良県分について

○調査対象市町村・・・12市4町2村

奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、
御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、田原本町、御杖村、高取町、
上牧町、広陵町、十津川村

○調査対象(客体数)

二人以上の世帯・・・720世帯

単身世帯・・・52世帯